



## 白書：奴隷制の新しい顔

ナタリヤさんは東ヨーロッパの中でも最も貧しい国モルドヴァの小さな村に住んでいます。二人の幼い娘のシングル・マザーであると同時に、彼女は病気の弟の世話もしなければならず、経済的に窮乏している町で仕事を見つけるのに四苦八苦しています。ナタリヤさんの隣人のカタリーナさんが、ウクライアのオデッサでバーを経営している人のところでいい仕事のチャンスがあると教えてくれます。カタリーナさんは、バーのウェイトレスの仕事を見つけてあげられると言い、手数料をもらって、ナタリヤさんが北の港町まで旅行する手配を助けてあげると申し出ます。

数週間後、ナタリヤさんはお金を稼いで、弟と娘たちを養っていけるようになりたい一心で、オデッサへ向かう飛行機に乗っています。けれども、いったん目的地に到着すると、ナタリヤさんひどく欺かれていたことに気がつきます。バーやウェイトレスの仕事など最初からなかったこと、そして彼女の隣人で友達だったカタリーナさんがナタリヤさんを性的奴隷制に売ってしまったのだということがわかります。バーの所有者というのは軽犯罪者でもあるポン引きで、このバーは売春宿です。実際に何が起こったのか理解する間もないうちに、彼女のパスポートは没収され、空港から狭苦しいアパートへ連れて行かれます。彼女はそこで — 他の十数人の若い女性たちと共に — 隷属期間の間中、ずっとそこで暮らすことになるのです。

まず最初に、「商品を試さなければならない」と言うポン引きによってナタリヤさんはレイプされ、その後ずっと続くことになる暴力と屈辱を初めて味わいます。その後間もなく、毎日、現金を払って手取り早いセックスを求める十数人の男性 — ビジネスマン、地元に住む観光客など — の相手をするのを強要されます。数ヶ月の性的虐待と身体的暴力の末、ナタリヤさんは精神的にも感情的にもくたくたになり、その境遇を甘受するようになります。しばらくして、友好的な顧客が彼女をポン引きから「買い取って」くれて、家へ送り返してくれます。けれども、モルドヴァに戻っても、小さな村には職がありません。唯一の解決策は、モルドヴァの首都キシナウで売春をすることだと、ナタリヤさんは考えます。「どうせ、もう落ちぶれてしまっているのだから同じこと…」というわけです。

### 人身売買の定義

性的人身売買は、売春やその他の形態の商業的な性的搾取のために国内または国境を越えて女性と児童を移送することです。<sup>1</sup> それらの目的のために女性と児童を斡旋、移動、隠匿、

<sup>1</sup> この白書では、主として性的搾取のための人身売買について述べています。けれども、労働のための人身売買も、同様に蔓延している国際問題です。「国連犯罪と正義情報ネットワーク」によれば、人身売買とは、「搾取の目的で、威嚇や暴力やその他の強要の形態、誘拐、詐欺、策略、権力の乱用、弱い立場、他人をコントロールしている人の承諾を得るために金銭または恩恵を与えるか受け取ることなどによる、人間の斡旋、輸送、移送、匿い、受け入れ」です。国際労働機構 (ILO) は、どの時点でも、約 1,230 万人が強制労働、児童就労、性的隷属、強制的隷属に囚

移送、販売することを含みます。

毎年、約 80 万人の女性と児童が国境を越えて売買されています。<sup>2</sup> 米国連邦捜査局によると、人身売買は、年間 95 億ドルの収入を生み出していると推定されています。<sup>3</sup> さらには、米国保健社会福祉省は、人身売買は、現在の世界で 2 番目に大規模な犯罪産業として、今では違法な武器産業と結び付いていると結論づけました。<sup>4</sup>

「国連女性のための開発基金」と「国連メコン地域における人身売買対策班」によれば、性的人身売買はその範囲と規模が増大しているようであり、国際化によって、人身売買業者が被害者を国から国へと移送することが容易になっていることから、ますます多くの国々を巻き込むようになってきているとのことです。<sup>5</sup>

性的人身売買は、世界中のほとんどすべての国々を巻き込んでいる広範囲に広がっている問題です：

- 全ての人身売買の被害者の約 75 パーセントが、性的搾取を目的に売買されています。<sup>6</sup>
- 世界中で約 2 百万人の女性と児童が性的隷属状態におかれています。多くの専門家は、実際に人身売買されている人々の数はその 10 倍にのぼると推定されています。<sup>7</sup> 人身売買が秘密裏に行なわれる性質上、その規模がどのくらいであるかを判断することは困難です。オランダの人身売買に対する全国的報告書によれば、人身売買が報告されるのは全体の約 5 パーセントに過ぎないということです。<sup>8</sup>
- 毎年、推定約 12 万人の女性と女兒が西ヨーロッパに人身売買されています。<sup>9</sup>
- 米国では少なくとも 20 州で、性的人身売買のケースが報告されており、そのほとんどが、ニューヨーク州、カリフォルニア州、フロリダ州で起こっています。<sup>10</sup> 毎年、

---

われていると推定しています。“Trafficking in Persons Report.” 2007 年、8 ページ。

<<http://www.state.gov/g/tip/rls/tiprpt/2007/>>

<sup>2</sup> “Trafficking in Persons Report.” 2007 年、8 ページ。 <http://www.state.gov/g/tip/rls/tiprpt/2007/> 人身売買は、国境を越えて人々を移送するというニュアンスがあるため、この数値には、自国内で売買されている性的奴隷制の被害者は含まれていません。

<sup>3</sup> “Trafficking in Persons Report.” 2006 年、13 ページ。米国国務省。

<<http://www.state.gov/g/tip/rls/tiprpt/2006/>>

<sup>4</sup> “Fact Sheet: Human Trafficking.” 米国保険社会福祉省、2004 年、1 ページ。

<[http://www.acf.hhs.gov/trafficking/about/fact\\_human.htm](http://www.acf.hhs.gov/trafficking/about/fact_human.htm)>

<sup>5</sup> “Trafficking in Persons: A Gender Rights Perspective Briefing Kit.” 2002 年。国連女性開発基金、国連機関間大メコン亜区域人身売買反対プロジェクト。

<<http://www.unifem-eseasia.org/resources/others/traffic.htm>>

<sup>6</sup> “UN Commission on the Status of Women Adopts U.S. Human Trafficking Resolution.” 2005 年 3 月 18 日、1 ページ。米国国務省。<<http://www.state.gov/g/tip/rls/fs/2005/43630.htm>>

<sup>7</sup> “The Cause of Sex Trafficking is the Demand for It.” 2006 年、1 ページ。キャプティヴ・ドーターズ。<<http://www.captivedaughters.org/demand.htm>>

<sup>8</sup> “Trafficking in Persons Global Patterns.” 2006 年。国連薬物犯罪事務所 (UNODC)

<[http://www.unodc.org/pdf/traffickinginpersons\\_report\\_2006ver2.pdf](http://www.unodc.org/pdf/traffickinginpersons_report_2006ver2.pdf)>

<sup>9</sup> O’Connor, Monica, and Grainne Healy. “The Links Between Prostitution and Sex Trafficking: A Briefing Handbook” 2006 年、3 ページ。女性の人身売買に反対する連合、および、ヨーロッパ女性のロビー。<<http://action.web.ca/home/catw/attach/handbook.pdf>>

<sup>10</sup> Richard, Amy O’Neill. *International Trafficking in Women to the United States: A Contemporary Manifestation of Slavery and Organized Crime*. 1999 年、3 ページ。DCI 例外的情報分析プログラム、情報研究センター。<<http://www.cia.gov/library/center-for-the-study-of-intelligence/csi-publications/books-and-monographs/trafficking.pdf>>

推定約 14,500～17,500 人の女性と児童が米国へと人身売買されてきます。<sup>11</sup> そしてどの時点でも、約 30,000～50,000 人の性的奴隷が米国内に存在しています。<sup>12</sup>

- 性的人身売買は、合法的および非合法的売春の両方を含む商業的な性産業の供給源となっています。

性的人身売買は公共の場と私的な場所の両方で起こります。路上での売春などのように、人身売買の被害者が人目につく場合もありますが、大抵の場合は、民家や売春宿のような人目につかない場所で起こります。しばしば、マッサージ・サロン、温泉、ストリップ・クラブなどといった公共の場や合法的場所の背後で、違法な売春や人身売買が起きていることもあります。<sup>13</sup>

人身売買は、時として「新しい奴隷制」と呼ばれることがあります。その理由は、奴隷（人身売買の被害者）と主人（人身売買業者）との関係には奴隷制と同じ特徴があるからです。この新しい奴隷制においては、女性と女兒は安く買われて、顧客には高く売られます。一人の主人や一箇所の場所で仕えるのではなく、被害者は多数の「所有者」の間でたらい回しにされます。また、女性と女兒の供給源には限りがないように見えるため、奴隷たちは究極的には使い捨てされる存在です。<sup>14</sup>

多くの国々には厳しい反人身売買法がなく、そのような法律がある場合でも、守られていないことがしばしばです。比較的少数の人身売買業者しか罪に問われることはなく、有罪の判決が下されることは滅多にありません。恐れや恥の気持ちから、多くの女性と女兒は助けを求めることはせず、また、タイやロシアで例証されているように、警察組織の腐敗が広がっているため、人身売買の被害者が地域社会や国家の当局に助けを求めることは安全でないことがあります。<sup>15</sup>

時々、女性と女兒が人身売買から救い出されて、援助や世話や思いやりを受けられることはあります。けれども、多くの場合は、人身売買の被害者は警察によって犯罪者のように取り扱われます。人身売買の行なわれている限界で逮捕された女性と女兒は、しばしば、人身売買の被害者ではなく、不法移民者として扱われ、直ちに自国へ強制送還されますが、帰国しても、経済的に別な選択肢がないため、再び人身売買と搾取のサイクルに陥ってしまいます。

### 供給源:誰が売買されているのか

人身売買は強要と詐欺で成り立っており、自ら選択して国内および国境を越えて移動する場合と混同してはなりません。ひとたび移動のサイクルに引き込まれると、多くの人々が人身

<sup>11</sup> “Stop Violence Against Women: Trafficked Women and Girls Questions and Answers” 2005 年、2 ページ。<[http://www.amnestyusa.org/women/trafficking/question\\_answer.html](http://www.amnestyusa.org/women/trafficking/question_answer.html)>

<sup>12</sup> Landesman, Peter. “The Girls Next Door (How Sex Trafficking Works)” 2004 年 1 月 25 日号、2 ページ。「ニューヨーク・タイムズ」紙。  
<<http://query.nytimes.com/gst/fullpage.html?res=9B04EEDA1439F936A15752C0A9629C8B63&sec=&sp on=&pagewanted>>

<sup>13</sup> “Fact Sheet: Sex Trafficking.” 米国保険社会福祉省。  
<[http://www.acf.hhs.gov/trafficking/about/fact\\_sex.html](http://www.acf.hhs.gov/trafficking/about/fact_sex.html)>

<sup>14</sup> Bales, Kevin. *Disposable People: New Slavery in the Global Economy*. カリフォルニア大学出版部: パークレー、2004 年。

<sup>15</sup> Richard, Amy O'Neill. *International Trafficking in Women to the United States: A Contemporary Manifestation of Slavery and Organized Crime*. 1999 年、8 ページ。DCI 例外的情報分析プログラム、情報研究センター。<<http://www.cia.gov/library/center-for-the-study-of-intelligence/csi-publications/books-and-monographs/trafficking.pdf>>

売買され、売春を強要されます。驚くに当たらないことですが、最も貧しく不安定な国々の多くにおいて、人身売買の発生率が最も高くなっています。

ほとんどの人身売買の被害者の共通項は、極貧です。性的人身売買の被害者の 80 パーセントをおとなの女性が占めていますが、それらの 50 パーセントは未成年です。<sup>16</sup> 1 歳や 2 歳の児童が売春宿で発見されたことがあります。通常、児童は親たちによって強制的に性的人身売買業者のもとに連れて行かれたり、売られたりします。多くの場合、その親たちは子供たちが養子縁組組織に売られるのだと思っています。時には、貧困に加えて、女兒は男児と比べて低い価値しかないと思われることから、親たちはそれと知りつつ性的奴隷制に自分たちの娘を売ってしまう場合さえあります。

旧ソ連邦とその他の東欧の国々は、貧困と政治的・社会的腐敗が蔓延しており、人身売買の温床となっています。タイ、中国などの東洋の国々も同様で、人身売買産業において主要な役割を果たしています。

「女性の人身売買に反対する連合」によると、労働市場における競争の激化、失業、職業の不安の欠如などが、女性の所得と経済的地位を損っているとのこと。男女間の賃金格差が大きくなり、パートの仕事や正式ではない仕事に就く女性が増え、そのため、低賃金の仕事や長期的な失業状態に女性たちを追い込み、それが女性を人身売買業者に対して弱い立場においてしまいます。<sup>17</sup>

#### 供給者：誰が売買するのか

主として犯罪組織が、人身売買の原因となっています。女性と女兒の性的人身売買に関わっている犯罪グループはしばしば、麻薬と武器の越境移送にも関わっており、その活動を実行する手段として頻繁に暴力を用います。<sup>18</sup>

「国連薬物犯罪事務所（UNODC）」によれば、人身売買業者の大部分はアジア出身であり、その次がヨーロッパの中央部および南東部、次が西ヨーロッパです。<sup>19</sup> 人身売買業者は、被害者を送り込む目的地となる国々と強いつながりを持っていることが多く、その国で強力な顧客ベースを築き、保護してもらえる地元の当局からの協力の経路を作り出すことを可能としています。<sup>20</sup>

残念なことに、その活動が秘密裏に行なわれること、被害者の無防備さ、そして地元や国家の警察当局の腐敗の蔓延などによって、人身売買業者は逮捕されたり、告発されたりすることは稀にしかありません。更に、ほとんどの人身売買関係の起訴は被害者の苦情に基づいていますが、人身売買の被害者はほとんど語ることをしません。<sup>21</sup> 告発された場合でも、人

<sup>16</sup> “Trafficking in Persons Report” 2007 年、8 ページ。 <<http://www.state.gov/g/tip/rls/tiprpt/2007/>>

<sup>17</sup> O'Connor, Monica, and Grainne Healy. “The Links Between Prostitution and Sex Trafficking: A Briefing Handbook. 2006 年、6 ページ。女性の人身売買に反対する連合、および、ヨーロッパ女性のロビー。 <<http://action.web.ca/home/catw/attach/handbook.pdf>>

<sup>18</sup> 同上、24 ページ。

<sup>19</sup> “Trafficking in Persons Global Patterns” 2006 年、80 ページ。国連薬物犯罪事務所（UNODC） <[http://www.unodc.org/pdf/traffickinginpersons\\_report\\_2006ver2.pdf](http://www.unodc.org/pdf/traffickinginpersons_report_2006ver2.pdf)>

<sup>20</sup> 同上

<sup>21</sup> “Protocol for Identification and Assistance to Trafficked Persons and Training Kit.” 2005 年。反奴隷制国際ネットワーク。

<<http://www.antislavery.org/homepage/resources/PDF/Protocoltraffickedpersonskit2005.pdf>>

身売業者は通常、麻薬や武器の密輸者に比べて軽い刑罰しか受けません。<sup>22</sup>

### どのようにして女性と女兒が売買されるのか

店員やウェイトレスなどといった正当で合法的な仕事のオファーで誘い出される場合もあります。その他の場合は、結婚、教育の機会、より良い生活を約束されます。更には、ボーイフレンド、友達、隣人によって、あるいは親にさえも、人身売買に売られてしまうことがあります。

女性と女兒が自国で誘拐されたり、勧誘されたりした後、数カ国を通過して移送され、最終目的地の国で搾取的労働や性的仕事をすることを強要されます。人身売買の被害者はしばしば、複数の人身売買業者の間で移送され、自国からどんどん遠くへ移送されてしまいます。<sup>23</sup> 多くの場合、人身売買業者と被害者は同じ国籍を持っています。例えば、ウクライナの人身売買業者はその隣人をトルコへ人身売買するかもしれません。一旦そこへ連れて行かれたならば、そこで被害者はトルコの人身売買者に売られ、その後、そのトルコ人が最終目的地であるタイまで連れて行くというようなことが起こります。

国境を越えた人身売買のほうが国の内部での人身売買よりも注目を集めてきてはいますが、現実には、「世界で行われている人身売買や人の搾取の多くは、元々ということであれば、地域社会や国の中で発生しています。」<sup>24</sup> 国内での人身売買の分野については、UNODCのような機関を除けばごく少ない証拠しか報告されておらず、これらの機関には、根絶のためのツールがなく、この問題の深刻さを認識しています。

男性と女性の両方が女性と女兒を性的奴隷制への人身売買に参加しています。通常、男性が人身売買の集団を取り仕切っていますが、被害者をうまく人身売買に巻き込むことにおいては、女性が手助けをしています。被害者を心理的に操作するために、人身売買に関わる女性が、被害者の信頼を獲得します。

たいていの場合、人身売買業者に身柄を拘束されると、被害者のパスポートと身元書類は取り上げられてしまいます。被害者は、連れて行かれた国に不法入国していると告げられ、それが被害者が人身売買業者への依存度を増し、たいてい囚われの身となってしまいます。被害者は更に、負債による拘束状態に陥ってしまい、斡旋や移送にかかった多大な費用を払い戻すまで人身売買業者から解放されることはありません。多くの被害者は、束縛されている

<sup>22</sup> “The Race Dimensions to Trafficking in Persons—Especially Women and Children.” 2001年。国連主催の人種差別反対世界会議。<[http://www.un.org/WCAR/e-kit/trafficking\\_e.pdf](http://www.un.org/WCAR/e-kit/trafficking_e.pdf)>

<sup>23</sup> 2006年に、「国連薬物犯罪事務所（UNODC）」は、世界中の人身売買の被害者の移動の流れを調べました。人身売買産業への関わりと人身売買のサイクルにおける役割に基づいて、国々にランク付けが行なわれました。送り出し国とは、女性と女兒が送り出される国です。通常、送り出し国は、経済摩擦や社会的な不安定状態の度合いの高い開発途上国です。主要な送り出し国には、アルバニア、ベラルーシ、ブルガリア、中国、リトアニア、ナイジェリア、ルーマニア、ロシア連邦、タイ、ウクライナなどが含まれます。UNODCは、127カ国の送り出し国を発見しました。通過国とは、人身売買された女性が通過する国です。通過国はさらに、人身売買された様々な女性たちにとっての目的地にも送り出し国にもなる場合があります。主要な通過国には、アルバニア、ブルガリア、ハンガリー、イタリア、ポーランド、タイなどが含まれます。通過国については少ないデータしか存在していませんが、UNODCは98カ国の通過国を確認しました。目的地となる受け入れ国は、人身売買された女性たちが性産業で働くために送り込まれる国です。主要な受け入れ国には、ベルギー、ドイツ、ギリシア、イスラエル、イタリア、日本、オランダ、トルコ、米国が含まれます。UNODCは、合計137カ国の受け入れ国を見つけました。“Trafficking in Persons Global Patterns” 2006年、17～20ページ。国連薬物犯罪事務所（UNODC）<[http://www.unodc.org/pdf/traffickinginpersons\\_report\\_2006ver2.pdf](http://www.unodc.org/pdf/traffickinginpersons_report_2006ver2.pdf)>

<sup>24</sup> 同上、120ページ

期間に更に罰金や費用を加算されて、それを払いきるまで働かねばならなかったと報告しています。<sup>25</sup>

人身売買の被害者は、徐々に段階を経て酷く扱われるようになり、身体的および心理的責め苦を経験します。しばしば、食事を与えられなかったり、睡眠を妨げられたり、自由に動き回ることができないようにされたり、身体的な拷問を受けたりします。逃げ出そうとしたり、誰かに知らせたりしたならば、彼女たちの家族や子供たちが傷つけられたり、殺されたりすることになると脅かすことによって、女性たちを拘束しておきます。<sup>26</sup> 被害者たちは移送されてきた国の文化や言葉がわからないことが多いため、彼女たちは更に心理的ストレスとフラストレーションを経験します。

しばしば、接客の前に、虐待と辱めのサイクルの手始めとして、女性たちは人身売買業者自身によって強制的にレイプされることがあります。脱出できなくなるように、薬物で意識を朦朧とさせておかれる女性たちもいます。慣れてきた後は、性的人身売買の被害者は、一日に 30 人もの男性の接客をさせられ、性病、HIV 感染、望まない妊娠などの危険に晒されます。

#### 需要：人身売買された女性と女兒を買うのは誰なのか

性的人身売買は世界中 — 都心の路上、郊外の住宅街、地方の僻村などのどこでも — で起こっていますが、人身売買の需要の側面に関してはあまり重要視されてきませんでした。性的人身売買は開発途上国で起こり、開発途上国のみに影響しているという誤った考えがあります。けれども、人身売買の最大の消費国の多くは先進国であり、社会のあらゆる階層の男性たちが人身売買産業を支援しています。

世界の多くの地域で、お金を払って性的接待を買うという行為が不名誉なことだと知覚されることが少なく、売春は被害者のない犯罪と見なされています。例えば、日本では、売春婦のところへ行くことが、仕事と人間関係をこなしていく困難への妥当な解決策であると思なす男性も多くいます。家父長的で、男尊女卑的考え方が、多くの男性の性的人身売買や売春に対する態度を増長させています。タイでは、親が娘を売って新しいテレビの代金に充てるケースがあります。「北部の県で実施した最近の調査では、娘を売った家族の 3分の2は、そうしなくても済ますことができたのに、それでも代わりにカラー・テレビやビデオ機器を買うほうを好みました」<sup>27</sup>

人身売買の蔓延の一つの主要な要素は、セックス観光です。セックス観光とは、セックスの目的のための旅行や休暇であり、世界中で年間 10 億ドルもの利益を上げる産業となっています。<sup>28</sup> 「国際労働期間 (ILO)」によれば、セックス観光は、インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイの国民総生産の 2~14 パーセントを占めているとのこと。多くの買春ツアーが、はっきりと思春期前の女兒を呼び物としており、児童を性的欲求のはけ口とする小児性愛者たちや、処女や女兒とセックスをすることが性病を癒すと信じている男性たちのために提供されます。しばしば、これらの男性たちは HIV やその他の性病を幼い被

<sup>25</sup> “The Race Dimensions to Trafficking in Persons—Especially Women and Children” 2001 年。国連主催の人種差別反対世界会議。<[http://www.un.org/WCAR/e-kit/trafficking\\_e.pdf](http://www.un.org/WCAR/e-kit/trafficking_e.pdf)>

<sup>26</sup> “Trafficking in Persons: Amnesty International Fact Sheet.”  
<[http://www.amnestyusa.org/women/trafficking/pdf/trafficking\\_of\\_persons.pdf](http://www.amnestyusa.org/women/trafficking/pdf/trafficking_of_persons.pdf)>

<sup>27</sup> Bales, Kevin. *Disposable People: New Slavery in the Global Economy*. カリフォルニア大学出版部：バークレー、2004 年、40。

<sup>28</sup> “United States: The Role of Military Forces in the Growth of the Commercial Sex Industry” 2003 年。  
「イクオリティー・ナウ」 <[http://www.equalitynow.org/english/actions/action\\_2301\\_en.html](http://www.equalitynow.org/english/actions/action_2301_en.html)>

害者たちに感染させ、地域的な性病の流行を引き起こすことになります。

「国連人権委員会」の最近の調査によれば、国際援助労働者、軍事要員、平和維持軍、武力抗争や政情不安定な状況での国際組織の雇用者が、しばしば性的搾取に由来するサービスの需要をもたらすことがあることが分かりました。<sup>29</sup> 「北大西洋条約機構(NATO)」は、この事実と戦うために、NATO の軍隊とスタッフによる搾取について、いかなる違反も許さないポリシーを制定しました。<sup>30</sup> また、「パレルモ議定書」でも批准国に対して需要を防ぐための社会的、法的措置を取るよう求めており、人身売買を終わらせるための責任を各国に負わせています。2007年10月の時点で、115カ国が批准し、この努力への献身を示しています。<sup>31</sup>

人身売買産業を支援している男性は「どこか遠いところ」にいて、地元の地域社会では人身売買など起こらないという考えが、広く受け入れられています。実際には、人身売買産業を支援している男性は、社会のあらゆる階層の男性たちで、多くは地域社会のメンバーとして尊敬されている人々である場合もあります。2004年の『ニューヨーク・タイムズ』紙の人身売買に関する記事は、主な顧客がアメリカ人のビジネスマンであるメキシコの女兒たちの性的人身売買について探っていました。その若い被害者の一人は、次のように語りました。「私の目的は、その男性たちが自分の子供たちを虐待するのを防ぐことなのだ、言われました」<sup>32</sup> 「オプラ・ウィンフリー・ショー」の2005年の番組では、非常に尊敬されていたキリスト教の牧師によって米国内に人質にされて、定期的に性的虐待を受けていたチベット出身の人身売買の被害者キム・メストンさんの実話を紹介しました。<sup>33</sup>

人身売買を阻止するには、人身売買と売春産業の有害な影響について、男性たちを教育することが必要です。更には、女性と女兒に対する否定的および差別的態度も正されなければなりません。

### 性的人身売買の悪影響

女性と女兒の性的人身売買は、その主な被害者である女性と女兒にとっても、また、社会全体にとっても、途方もない害悪をもたらしています。人身売買は、身体的および精神的健全さ、人身の安全、移動の自由、プライバシーなどの虐待です。人身売買は「命、自由、奴隷制からの解放への普遍的人権を犯すものです」<sup>34</sup>

性的人身売買は、更に個人および社会に、広範囲に亘る有害な結果をもたらします：

- 性的人身売買は、女性と女兒を家族と地域社会から離してしまうことによって、社会的崩壊を促します。被害者が元の地域社会に帰ることができるとしても、帰った後で、社会的汚

<sup>29</sup> Commission on Trafficking. “Integration of the Human Rights of Women and a Gender Perspective” 2006年、18ページ。

<<http://action.web.ca/home/catw/attach/Special%20Rapporteur%20trafficking%202006%20report%20demand.doc>>

<sup>30</sup> NATO Policy On Combating Trafficking In Human Beings <<http://www.nato.int/docu/comm/2004/06-istanbul/docu-traffic.htm>>

<sup>31</sup> UN Protocol to Prevent, Suppress and Punish Trafficking in Persons

<[http://www.unodc.org/unodc/en/crime\\_cicp\\_signatures\\_trafficking.html#declaration](http://www.unodc.org/unodc/en/crime_cicp_signatures_trafficking.html#declaration)>

<sup>32</sup> Landesman, Peter. “The Girls Next Door (How Sex Trafficking Works).” 「ニューヨーク・タイムズ」紙。2004年1月25日号、8ページ。

<sup>33</sup> 被害者権利会議 <<http://www.mass.gov/mova/page155.shtml>>

<sup>34</sup> “Trafficking in Persons Report” 2005年、13ページ。米国国務省。

<<http://www.state.gov/g/tip/rls/tiprpt/2005/>>

名、差別、拒絶などによって二重の被害者となってしまいます。

- 人身売買は、麻薬や武器、不正資金浄化などといった、多くの他の非合法的活動にも関わっていることが多い組織の犯罪を助長します。

- 性的人身売買によって人材が失われることになり、地域社会と国家の労働市場に悪影響を及ぼします。人身売買の経済への影響に含まれるのは、「賃金の低下、高齢者の世話をする人々の減少、無教育の世代などです。これらの影響は、将来の生産性と収益能力の損失につながります」これは特に、人身売買の被害者である児童の場合に当てはまります。<sup>35</sup>

- 性的人身売買は、公的保健システムに負担を加えます。人身売買の被害者はしばしばいくつもの身体的および心理的トラウマに悩まされます。例えば、性病、不安、鬱症状、外傷後ストレス障害などです。被害者は更に、不衛生な生活環境や栄養不良などから身体的合併症を患うおともよくあります。

- 性的人身売買は政府の権威を侵食し、広範囲の違法行為を奨励し、人口のうちの弱い人々の安全を脅かします。<sup>36</sup>

### 人身売買との戦い

女性と女児の性的人身売買を根絶するためには、この問題の供給面（人身売買業者とその被害者）と需要面（人身売買の顧客と、セックスをお金で手に入れる人々）の両方の面に対処する活動が必要です。<sup>37</sup>

人身売買の被害者となる可能性のある人々のために、経済的機会と別の選択肢を作り出すことが極めて重要です。そのイニシアチブの例としては、零細事業向けローン、就職研修、カウンセリング、教育プログラム、自国の女性の政治的、経済的、社会的、教育的役割を促進し、発展させる非政府組織への助成金などが挙げられます。<sup>38</sup>

人身売買の被害者を助け、女性と女児の性的人身売買を防止するためには、国々や地域は、人身売買についての一般社会の理解を深め、人身売買について一般の人々を教育する資料を作成するように奨励されるべきです。立法者や法執行機関は、人身売買業者とお金を払ってセックスをする人を処罰する法律を制定し、執行しなければなりません。ドメスティック・

---

<sup>35</sup> 同上、14 ページ。

<sup>36</sup> “TRAFFICKING in Persons Report” 2006 年。米国国務省。

<<http://www.state.gov/g/tip/rls/tiprpt/2006>>

<sup>37</sup> 毎年、米国の国務省は、人身売買を根絶させるための最低限の基準を遵守しているかどうかに基づいて、国々を評価しています。この評価は、人身売買業者の処罰、被害者の保護、人身売買の防止、被害者の救出、更正、復帰という 6 つの評価基準に基づいています。人身売買を適切に阻止している国々は、「分類 1」と「分類 2」と指定されています。一方、容認できないような人身売買に関する記録のある国々には、「分類 2」の「監視リスト」に載せられるか、「分類 3」にされます。「分類 3」に指定されると、人道的問題や貿易に関係のない事柄への援助を米国から受けられなくなることがあります。「分類 3」に指定された国々に含まれているのは、アルジェリア、バーレーン、ミャンマー、キューバ、赤道ギニア、イラン、クウェート、マレーシア、北朝鮮、オマーン、カタール、サウジアラビア、スーダン、シリア、ウズベキスタン、ベネズエラです。最近では、この報告書は、透明さがなく、分類において偏っているとの理由で、様々な国際的指導者によって批判されてきました。“Trafficking in Persons Report” 2007 年、42 ページ。

<<http://www.state.gov/g/tip/rls/tiprpt/2007/>>

<sup>38</sup> “Needs Assessment for Service Providers and Trafficking Victims” 2003 年、4 ページ。国立司法研究所。<<http://www.ncjrs.gov/pdffiles1/nij/grants/202469.pdf>>

バイオレンスのシェルターと社会の支援サービスは、人身売買された女性と女兒たちのニーズに対処するように奨励しなければなりません。そして、普通の社会生活に戻ろうとしている元人身売買被害者の女性と女兒を助けるために、過渡期の生活を助ける更正プログラムが実施されるべきです。

2000年には、国連は、「人身売買、特に女性と児童の人身売買を防止、抑制、処罰するため」に、「パレルモ議定書」を通過させました。この議定書は、「人身売買につながるような、人々、特に女性と児童の、あらゆる形態の搾取を助長させるような需要を阻むために、二国間または多国間での協力を含む立法的措置や、その他、教育的、社会的、文化的措置を採択するか強化する」ことを求めています。<sup>39</sup>

人身売買は国境を越える問題であるため、多国的および国際的機関の協力と調整が必要です。これまでは、人身売買を阻止しようとする努力の大部分が役に立たず、効果をあげてきませんでした。どのようにして人身売買の需要と戦うのが最良の方法であるかを検討するにあたって、警察当局や政府関係者が、「人身売買業者を積極的に処罰すること、また、そのような産業を助長し、そこから利益を得ている社会の腐敗と戦うこと、より良い情報収集と調整によって人身売買のルートを見つけ出し、阻止すること、人身売買の法的定義を明確にすること、人身売買の被害者を見つけ出し、適切な保護のもとに導くこと」を実行することが不可欠です。<sup>40</sup>

調査によれば、人身売買された女性と女兒の約 65 パーセントが、見つけ出された時に、適切な援助を受けていません。「反奴隷制インターナショナル」からの最近の報告では、当局はそれらの女性と女兒を人身売買の被害者としてではなく、不正規の移住者としての取り扱う傾向があることがあり、それが人身売買のケースを追跡し、制御することを困難にしているということが明らかにされています。また、この報告書によれば、人身売買の被害者は、シェルターや合法的な支援サービスを得られる機会や、適切な安全確保が得られる、自国へ帰るための手段も限られていることがわかりました。ほとんどの国には、18 歳以下の人身売買の被害者のための特別なサービスがありませんでした。<sup>41</sup>

更に重要なのは、人身売買の需要を減少させるために為されなければならない活動です。これには、人身売買産業を金銭的に支えていることが発覚した男性に対する処罰の強化だけでなく、女性たちの苦勞について、また、女性嫌悪症、性差別、虐待、暴力などの悪影響について、男性を教育する活動を増強することも含まれます。

### 女性と女兒の人身売買を根絶するためにソロプチミストは何を行なっているか

ソロプチミストは、地域社会と世界中で女性と女兒の生活を向上させている、事業および専門職に携わる女性たちの国際奉仕組織です。ソロプチミスト・クラブは、女性と女兒が直面している地域社会の現実に立ち向かうためのいくつものプロジェクトを実施しています。多くのプロジェクトは、女性と女兒に直接的援助をもたらし、女性たちが経済的力と独立を達成するための手段と技能を提供することによって、人身売買の被害に陥りやすい女性と女兒

<sup>39</sup> “Protocol to Prevent Suppress and Punish Trafficking in Persons, Especially Women and Children, Supplementing the United Nations Convention Against Transnational Organized Crime.” 2000 年、6 ページ。国際連合。

<sup>40</sup> “Trafficking in Persons Report” 2006 年、21 ページ。米国国務省。

<<http://www.state.gov/g/tip/rls/tiprpt/2006/>>

<sup>41</sup> “Protocol for Identification and Assistance to Trafficked Persons and Training Kit” 2005 年、10 ページ。反奴隷制インターナショナル。

<<http://www.antislavery.org/homepage/resources/PDF/Protocoltraffickedpersonskit2005.pdf>>

を直接的、間接的に助けています。組織として、ソロプチミストは次のプログラムを支援しています：

「女性に機会を与える賞」 — 「女性に機会を与える賞」プログラムは、国際ソロプチミストアメリカの主要な奉仕プロジェクトです。この賞は、女性たちが教育、技能、雇用の可能性などを向上させるために使用できる援助を提供することによって、女性たちを助けます。女性が技能や知識を得る研修を受けられるよう助けることによって、ソロプチミストは、性的人身売買や売春に取って代わる生計の手段を女性たちに提供しています。

「女性に機会を与える賞」の受賞者の多くは、より良い生活を求めて、貧困、ドメスティック・バイオレンス、薬物濫用、そして時には人身売買などを含む、途方も無い障害を克服してきた女性たちです。全ての受賞者は、自分自身と自分の家族の生活を向上させようとして、働いています。毎年、このプログラムは、ソロプチミストの組織の様々なレベルの賞金を通して、約 100 万ドルを授与しています。1972 年にこのプログラムが始まって以来、約 2,000 万ドルが授与され、22,500 人以上の女性たちが援助を受けてきました。2003 年には、「女性に機会を与える賞」プログラムは、「米国組織役員協会 (ASAE)」の「アメリカ前進組織賞」表彰プログラムの「卓越賞」を受賞しました。

「女性と女兒のためのソロプチミスト・クラブ助成金」 — しばしば、ソロプチミスト・クラブが実行できる力と実行したいという熱意を持っていても、財力がそれについていけないという場合があります。ソロプチミストは、女性と女兒の生活を向上させる地域社会プロジェクトを援助するために、1997 年に「女性と女兒のためのソロプチミスト・クラブ助成金」を開始しました。毎年、経済的自立を助け、就職のための技能研修や教育を提供し、女性とその家族が貧困から抜け出すのを可能にするのに必要な援助を提供しています。この種のプロジェクトは、女性たちに移動性の仕事以外の可能性を与え、人身売買業者の手から逃れられるようにしておけます。2006 - 2007 クラブ年期には、ソロプチミストはクラブ助成金として 17 万 5 千ドル以上の資金を提供しています。このプログラムが開始されて以来、160 万ドル近くの助成金が授与され、クラブは 10 万人以上の女性とその家族を援助してきました。

クラブは「ソロプチミスト・クラブ助成金」を使用して、人身売買に関する理解を促進するためのプロジェクトを支援しました。例えば 2005 年には、日本の 2 つのクラブが、共同プロジェクトの「人身売買防止プロジェクト」のために、9,000 ドルのクラブ助成金を使用しました。これらのクラブは、人身売買に関する情報と、被害者はどのようにして助けを得られるかの情報を 8ヶ国語で記載した小冊子 6,000 部と 1,000 枚のポスターを印刷、配布しました。また、人身売買の理解促進のための国際シンポジウムを開催し、人身売買の被害者のためのシェルターへの支援を提供しました。

その他いくつかのクラブが、人身売買の被害者を助けるプロジェクトやイニシアチブを開発しました。その例としては、次のようなものがあります：

- フィリピンのクラブは、人身売買から逃れてきた女性と女兒のためのシェルターを支援しています。クラブ会員たちは、洗面用具、食品、保健サービスなどの、シェルター滞在者が必要としているものを提供しています。
- カリフォルニア州のクラブは、「人身売買に関する西部地域タスクフォース」を支援する会議を開きました。200 人以上の人々がこの会議に参加し、35 人のクラブ会員がこの行事の開催準備に参加しました。
- 過去 8 人の間、シカゴのクラブは、プロジェクトの主要な焦点として、人身売買を定めました。クラブ会員は、いくつかのプロジェクトを企画調整し、性産業に関

わったことのある十代の若者と女性を助けているグループを援助し、被害者のための立法および資金提供のための提唱活動をしている組織ともパートナーとなっています。

**「女性のために変化をもたらす賞」** — このプログラムは、個人として、または職業的活動を通して、女性と女兒の生活を向上させるために活躍した女性を称えます。毎年、ソロプチミストは、一人の最優秀賞受賞者を選び、受賞者の希望する慈善組織への寄付として 5,000 ドルが贈られます。

ソロプチミストの 2006 年の「女性に機会を与える賞」の受賞者であるキャスリン・シアンさんは、「ザ・セーフ・ゾーン財団」という非営利組織を通して、女性と女兒の生活を向上させるために人生を捧げています。2004 年には、キャサリンさんと「ザ・セーフ・ゾーン財団」は、性的人身売買とツアーに関する理解促進を目指した草の根キャンペーンを導き、アジアでのセックス・ツアーを提供している地元の旅行会社への反対運動を組織しました。キャスリンさんは、ハワイ州下院の人身売買公聴会でも証言しました。この公聴会の結果、法令第 82 条が通過しました。それによれば、「買春のための旅行を推進すること」は C 級の重罪と定められています。法令第 82 条は、現在、他の州の法律の模範となっています。

**ソロプチミストの「災害救援基金」** — ソロプチミストの「災害救援基金」は、自然災害や戦争行為から被害を受けた地域に金銭的援助を提供します。戦争行為や自然災害が起こった時に最も大きな被害を受けるのは女性と女兒であり、また、災害の後に支援サービスや援助を得る機会がない貧しい女性や、最も貧しいシングル・マザーたちなどは、とりわけ、人身売買の被害に陥りやすいものです。例えば、2004 年の東南アジアでの津波の後、レイプ、性的虐待、人身売買のケースが記録されています。<sup>42</sup> 多くの貧しい女性たちが、戦争行為や自然災害を逃れるのに必要な財力を持たず、災害の前から存在していた貧困と男女不平等のせいで、災害の後の損失から立ち直り、人生を再建することができにくくなっています。これらの女性と女兒の多くは、人身売買業者と人身売買産業に引き込まれやすい状態に置かれることになります。

危機状態の最中には、女性を対象とした救援活動はしばしば見逃され、また、女性と女兒は危機や災害時には特別なニーズがあるため、ソロプチミストの「災害救援基金」は、特に女性と女兒を助けるプロジェクトを支援しています。クラブは、自然災害や戦争の被害を受けた地域の地域のために、災害救援基金から拠出金を申請することができます。2004 年の東南アジアの津波の後には、ソロプチミストは女性と女兒に恩恵を与える 3 つの再建プロジェクトに 10 万ドル以上を贈りました。また、ハリケーン「カトリーナ」の女性と女兒に対する影響を分析する研究のために、5 万ドル以上が、「女性政策研究所」に贈られ、1 万ドルが、「ルイジアナ州ドメスティック・バイオレンス連盟」に贈られました。

#### **国際ソロプチミスト 4 年期プロジェクト：プロジェクト・インディペンデンス**

国際ソロプチミストの 2003 - 2007 年の 4 年期プロジェクトである「プロジェクト・インディペンデンス：戦禍を生き抜いた女性の自活支援」で、ソロプチミストは「ウイメン・フォー・ウイメン・インターナショナル」と協力しています。「プロジェクト・インディペンデンス」は、アフガニスタン、ボスニア、ルワンダなどの戦争で荒廃した国々の女性たちに、直接的な援助を提供し、女性たちが自分自身と家族の最低限の必要を満たすのを助けて

<sup>42</sup> “Trafficking in Persons Report” 2005 年、17 ページ。米国国務省。  
<<http://www.state.gov/g/tip/rls/tiprpt/2005/>>

います。零細事業向けローンや技能開発を通して、「プロジェクト・インディペンデンス」は女性たちが危機状態や貧困から抜け出すのを助け、危険に晒されている女性たちに、人身売買に巻き込まれることに代わる選択肢を提供するのを助けています。今日までに、このプロジェクトのために 120 万ドル以上が集められました。詳細については、次のウェブサイトをご覧ください：

<[www.womenforwomen.org/ProjectIndependence/index.htm](http://www.womenforwomen.org/ProjectIndependence/index.htm)>

国際ソロプチミストアメリカは、米国の 501 (c) (3) 慈善組織です。2004 年 12 月には「ペンシルベニア州非営利組織協会 (PANO)」から、「卓越の基準」プログラムの基準を満たし、「シール・オブ・エクセレンス」を受賞しました。